

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13874

研究課題名（和文）スウェーデンのSocial Pedagogyにみる教育福祉的実践の理論基盤の研究

研究課題名（英文）A Study on the Theoretical Foundation of Education Welfare Practice in Swedish Social Pedagogy

研究代表者

松田 弥花（Matsuda, Yaka）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：20824171

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、スウェーデンにおける、教育と福祉が融合した学問領域であるSP（socialpedagogik=social pedagogy）の新たな理論的枠組みを構築することであった。具体的には、SPと余暇教育（fritidspedagogik）及び治療教育（behandlingspedagogik）の関連を探ることであった。余暇教育と治療教育の、人との関係の中における学びや社会的な学習、参加やインクルージョンの視点がSPと共通するといえ、SPの肝となる構成要素であるという知見を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現代日本社会における、うつ病や発達障害、引きこもり、貧困など生活上で困難を抱える子ども・若者・成人の増加という社会的課題に対し、領域横断的な取り組みが増加している中で、学校内外における多様な教育福祉的実践を支える包摂的な理論基盤となり得る。同時に、スウェーデン研究を通じ、日本で発展してきた教育福祉論の発展にも貢献し得る。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to establish a new theoretical framework for the Swedish Social Pedagogy (SP), an interdisciplinary field that integrates education and welfare. Specifically, the focus was on exploring the relationship between SP, and leisure education (fritidspedagogik) and therapeutic education (behandlingspedagogik).

It was found that the perspectives of learning within relationships with others, social learning, participation, and inclusion in leisure education and therapeutic education are shared with SP. These insights suggest that these aspects are fundamental components of SP.

研究分野：社会教育学

キーワード：Social Pedagogy 教育福祉 余暇教育

1. 研究開始当初の背景

現代日本社会において、うつ病や発達障害、引きこもり、貧困など生活上で困難を抱える子ども・若者・成人は増加傾向にある。近年は、教育と福祉の融合が進みつつあり、以上の課題に対する研究・実践が増加している。人びとが抱える社会的課題に対する領域横断的な取り組みが増加している中で、学校内外における多様な教育福祉の実践を支える包摂的な理論基盤の構築が求められる。

申請者は、日本では未だ少ないスウェーデンの Social Pedagogy (Socialpedagogik: 社会的教育学、以下 SP) の研究を行ってきた。スウェーデンは福祉国家・生涯学習社会として世界的に注目されている。成人の学習活動への参加率は EU 加盟国で最も高く、どのような人でもやり直しができる社会態勢である。申請者が着目してきた SP は、教育と福祉が融合した、特に社会的に不利な状況にある子どもから高齢者の社会参加・社会復帰の課題を扱う、生涯学習社会の発展を支える重要な領域であり、日本の社会的課題に対して示唆的である。

スウェーデンの SP は 20 世紀初期からの歴史があるものの、20 世紀半ばの福祉国家建設時、部分的に社会福祉に吸収された背景があるため、社会福祉における教育的側面として研究上で位置づけられる傾向がある。しかしその位置づけ方では、Social "Pedagogy" の教育的価値が揺らぎ、結果として、SP の専門職として教育福祉的实践を担うソスペッド (Social Pedagogue=Soc-ped) の専門性が担保されない。SP は、社会福祉の一部にとどまらない幅広い概念であり、他領域との違いを明確にしつつ SP の固有性を追究する必要がある。

ここ数年間にソスペッドとして雇用された人びとは、高等教育機関ではない成人教育機関の 2 年間の養成課程を修了しており、それらの養成課程には実践領域である余暇教育 (Fritidspedagogik) や治療教育 (Behandlingspedagogik) に関する科目が含まれることが多い。このことから本研究では、SP の理論枠組み及びソスペッドの専門性をより幅広い知見から捉えるために、SP と余暇教育・治療教育との関連を探究し、各領域のどのような要素を包摂し、スウェーデンの SP 概念が成立しているのかという問いを立てた。

2. 研究の目的

以上を踏まえ本研究は、スウェーデンにおける SP と、余暇教育・治療教育との関係を理論的・実証的に検討することを通じ、SP の新たな理論枠組みを構築することを目的とした。本研究は、現代日本社会が抱える多様な社会的課題と向き合うための教育福祉的实践の理論基盤の構築に貢献し得る。

3. 研究の方法

当初は、理論的・実証的に SP と、余暇教育・治療教育の関係を探究する計画を立て、職業専門学校における余暇教育・治療教育を軸とする養成課程担当者や各養成課程修了者にインタビュー調査を行う予定であった。しかし、Covid-19 の影響及び申請者自身のライフイベントにより、当初計画していた研究方法が実施できなかったため、研究方法を一部修正し、上記の研究目的の達成に努めた。修正後の新たな研究計画は下記の通りである。

(1) 研究課題 : SP と、余暇教育・治療教育の関係に関する研究

社会的要請の高まりに伴い、成人教育機関のソスペッド養成課程において余暇教育・治療教育の科目が増加している現状に鑑み、文献調査によって実践領域としての余暇教育・治療教育と SP の理論的な接点を探る。

(2) 研究課題 : SP の主要要素及び余暇教育・治療教育の理論基盤に関する研究

これまで申請者が行ってきた SP 研究で得られた知見と、研究課題 で得られた知見を総合し、SP と余暇教育・治療教育の共通点を見出すことで、SP が内包する余暇教育・治療教育の要素を抽出する。これを通じ、SP 概念を構成する主要要素を見出すと同時に、SP に理論基盤を求める余暇教育・治療教育が依拠する概念とは何かを考察する。

4. 研究成果

(1) SP と余暇教育の関係

理論的接点

余暇教育は、高等教育機関(大学や職業専門学校)の養成課程の科目に位置づいていることが多いものの、「余暇教育学」として学問が確立されているわけではなく、研究も多くはない。余暇教育を科目として取り入れている養成課程の修了者は、「余暇教育者(fritidspedagog)」や「余暇リーダー(fritidsledare)」と呼ばれ、余暇教育者の就職先として主要なものに学童保育がある。数少ない余暇教育研究者は、SP を理論基盤に余暇教育を論じる。余暇教育は、ケア(omsorg)と教育的(pedagogisk)な機能が融合している点で、SP との類似性があるということが分かった。

歴史的接点

余暇教育者の主要な就職先である学童保育の歴史をたどると、SP との関連がみられた。現在の学童保育 (fritidshem) の原点は、1880 年代に設立された「作業場 (arbetsstuga)」である。作業場とは、労働者階級の家庭や、シングル家庭、貧困家庭の子どもが通うために、学校の近くに設置された実学的な場所である。そこで子どもたちは、食事をとったり、遊んだり、勉強をしたり、裁縫や工芸などの手仕事を覚えたりすることができた。図書室が設けられることもあった。

作業場は、1920 年代までに各自治体の教育機関として位置づいていったが、1930 年代には、児童福祉の管轄に置かれることになった。児童福祉の管轄に位置づいたことで、作業場の教育的側面は失われることになった一方、強調されたのは、自由なレクリエーションや遊びであった。そして、「放課後保育 (eftermiddagshem)」の場として機能するようになった。

しかしその後、学校との接続がより重視されるようになり、設置場所も学校の敷地内に移動されるようになった。結果、1998 年に再度、教育行政の管轄に置かれることになった。同時に、学習指導要領が改訂され、学童保育に関する項目が位置づけられた。余暇教育の現場である学童保育の政策的な位置づけにみられるように、余暇教育が教育と福祉の両者に跨っているという点では、SP と共通していることが分かった。

(2) SP と治療教育の関係

治療教育については余暇教育以上に文献が少なく、管見の限り研究もなされていない。主に養成課程や実践現場で使用される用語であり、実証研究が重要となる領域であることが分かった。しかし、上述の通り様々な理由により現地調査を計画通りに実施することができなかつたため、限られた文献及びウェブ上での調査研究を行った。

歴史的経緯

SP と治療教育が接点を持ち始めたのは 1970 年代代と思われる。この頃、高等教育改革の一環で、高等教育機関におけるソスペッド養成の位置づけをめぐる議論がなされた際に、SP の理論を紹介したのが心理学を専門とする研究者であった。特に治療活動 (behandlingsarbete) に関心を寄せる研究者であり、治療活動の方法論として SP に着目し、心理療法とは異なるが近い領域として SP を「(social-) pedagogiska metoderna」= the (social) pedagogical methods」と表現した。高等教育改革の学識経験者として委員会に呼ばれた研究者によって、社会的治療活動 (sociala behandlingverksamheter) と SP 的活動 (socialpedagogisk verksamhet = socialpedagogical activity) は、ほぼ同等の関係に位置づけられたと考えられる。しかしこれ以降、この枠組みで SP が研究されることはなく、その後、なぜ、そしてどのように治療教育として実践現場で発展したのかという点は残された課題である。

政策的統合

2022 年 11 月に、ソスペッドが国で定められた規定に則った称号と位置付けられたことで、これまで治療教育者 (behandlingspedagog) の養成課程を持っていた職業専門学校の一部は、養成課程の名称を「治療教育者 / ソスペッド」に変更し始める動きが出てきた。もともと、治療教育者養成課程では SP に理論基盤を求め、カリキュラム内に SP が組み込まれていた。それは、治療教育の対象者は精神的・心理的に困難を抱える子どもから高齢者であることや、実践現場は学校や更生施設であるため SP 領域の一部と重なるからである。しかし、上記の政策動向をうけて、治療教育者の称号をソスペッドと統合することで、治療教育の独自性が見失われかねない。同時に、SP が治療教育そのものを包摂し得るのかも議論の余地がある。政策的な動きと合わせて、SP や治療教育概念の独自性の解明は喫緊の課題であるといえ、この点も残された課題である。

(3) SP が内包する余暇教育・治療教育の要素と SP 概念を構成する主要要素

SP と余暇教育に共通する側面として、ケア、教育、教育と福祉、包摂が挙げられる。他方、SP と治療教育が共有する側面として、対象者や実践現場の重なりや、実践における方法論の重なりが挙げられる。これらを踏まえ、SP を構成する主要な要素に、「社会的弱者」とされる人を社会的に包摂する「インクルージョン」の要素、インクルージョンの過程で生じる「参加」の要素、参加の過程における他者との関係における学びを重視する「社会的な学習」の要素があると考えられる。このことを仮説的に構造化したのが図 1 である。このような SP に内包される要素を頼りに、余暇教育・治療教育の養成課程や実践が展開され得る。

国内外において、Social Pedagogy と、余暇教育・治療教育の関連を理論的に探究した研究はなく、本研究が初めての試みであり、本研究の成果は Social Pedagogy 研究の発展に貢献し得る。先述のように特に治療教育については実証研究の限界により考察を深めることができなかった。余暇教育の実証研究も含め、今後もさらなる Social Pedagogy 概念研究が求められる。

なお、本研究の成果の一部は、拙著『スウェーデンにおける「あたたかい教育」：教育福祉的専門職 (ソスペッド) の理論と実践』(東京大学出版会、2024) で公開されている。

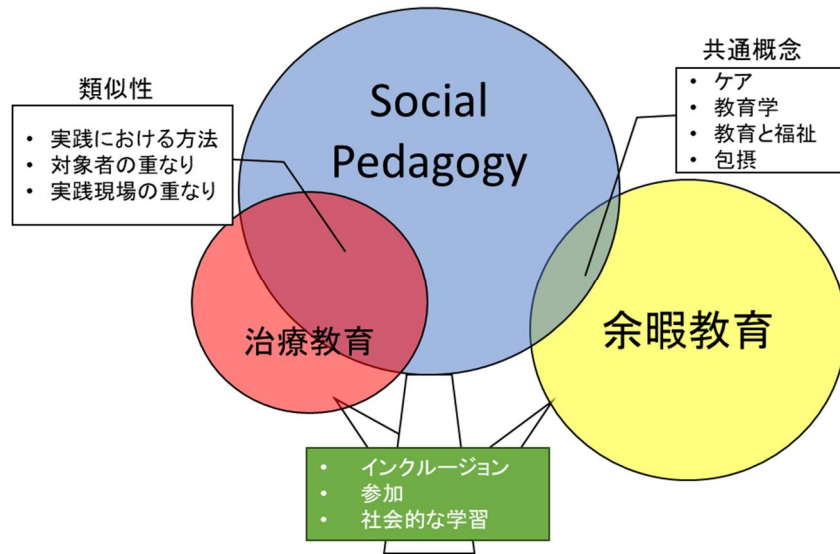


図 1：本研究を通じて得られた SP の新たな仮説的枠組み

主要参考文献

Anna Klerfelt, Björn Haglund. *Fritidspedagogik: Fritidshemmets teorier och praktiker*, Stockholm, Liber, 2011.

Sven Hessle. *Sociala avvikare är psykosocialt utsatta: En beskrivning av arbetsfältet för socialt behandlingsarbete på institutioner och i öppenvård, Utredning av Sociala Service linjen, socialpedagoglinjen mm*, UHÄ, 1981.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Matsuda Yaka, Baba Ayako, Sugawara Ikuko, Son Bo Kyung, Iijima Katsuya	4. 巻 24
2. 論文標題 Multifaceted well being experienced by community dwelling older adults engaged in volunteering activities of frailty prevention in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 273 ~ 278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14826	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松田 弥花、馬場 絢子、菅原 育子、孫 輔卿、飯島 勝矢	4. 巻 3
2. 論文標題 地域活動に従事する高齢者の Well-being 概念に関する文献研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 163 ~ 172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/53391	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 成章、俵 龍太郎、藤井 冨佳、滝沢 潤、松田 弥花、安藤 和久、川本 吉太郎、藤原 由佳、阿蘇 真早子、武島 千明、澤田 百花	4. 巻 3
2. 論文標題 地域と学校の協働の動向と実践的課題 : 学校運営協議会の設置による協働に注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 173 ~ 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/53392	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 成章、丸山 恭司、木下 博義、草原 和博、滝沢 潤、尾川 満宏、松田 弥花、森田 愛子	4. 巻 21
2. 論文標題 地域課題に応える教育学研究の革新による学術知共創	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 31 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/53596	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田祥代, 松田弥花, 本所恵, 渡邊あや, 是永かな子	4. 巻 17
2. 論文標題 インクルーシブ教育からみた義務教育から後期中等教育への移行とその支援 スウェーデンの取り組みと課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda Yaka	4. 巻 10
2. 論文標題 Social education and social work in Japan: from an education welfare theory perspective	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Social Pedagogy	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14324/111.444.ijsp.2021.v10.x.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田弥花	4. 巻 18
2. 論文標題 コロナ禍のスウェーデンにおける生涯学習の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本公民館学会年報	6. 最初と最後の頁 154-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24661/kominkan.18.0_154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Basic Goran, Matsuda Yaka	4. 巻 56
2. 論文標題 Inclusion and obstacles in the Swedish social pedagogical context: an analysis of narratives on working with unaccompanied refugee minors with wartime experiences in institutional care	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Croatian review of rehabilitation research	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 草薢佳奈子, 松田弥花, 佐藤真久	4. 巻 1
2. 論文標題 VUCA社会における参加と変容を促すESDアプローチ：スウェーデンの民衆教育と社会的学習の事例研究から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Working Paper Series in United Nations University Project “Reinforcing Societal Resilience by Promoting Education for Sustainable Development (ESD)”	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田祥代, 是永かな子, 松田弥花, 本所恵, 渡邊あや	4. 巻 16
2. 論文標題 インクルーシブ教育からみた義務教育から後期中等教育への移行とその支援 フィンランドの取り組みと課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Baba, A. Matsuda, Y. Sugawara, I. Son, BK. Iijima, K
2. 発表標題 Hedonia, Eudaimonia, and Social Well-being Experienced by Community-dwelling Older Adults Engaged in Health Volunteering Activities: Toward the Development of the New Concept of Ikigai
3. 学会等名 IAGG-Asia Oceania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田弥花
2. 発表標題 スウェーデンにおける「福祉社会」への移行とSocial Pedagogy
3. 学会等名 日本社会教育学会第70回研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 千明亜由美, 山崎敏秀, 松田弥花, 是永かな子
2. 発表標題 卒業生の就労先調査に基づく知的障害教育特別支援学校進路テキストの開発
3. 学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaka Matsuda
2. 発表標題 The role of social pedagogue in a compulsory school in Sweden: comparison with other school staff
3. 学会等名 The Nordic Educational Research Association; NERA2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松田弥花
2. 発表標題 1970年代のスウェーデンにおける高等教育改革とSocial Pedagogy
3. 学会等名 日本社会教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松田 弥花	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 スウェーデンにおける「あたたかい教育」：教育福祉の専門職（ソスペッド）の理論と実践	

1. 著者名 松田弥花他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 北欧の教育再発見	

1. 著者名 松田弥花	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 168
3. 書名 特別支援教育（是永 かな子、尾高 進）第1章1.5、特別支援教育と特別ニーズ教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------